

令和3年3月

兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科

教授 木村 真

大学院生 中川史津香

学術研究「医療費の自己負担率の変化による受療行動への影響の分析」

(1) 学術研究の成果の概要

近年、日本では医療費を抑制するために自己負担の在り方が議論されている。様々な研究で医療費の価格弾力性が推計されているが、いずれも高額療養費制度の影響を無視できるとしている。しかし、近年の制度改正は高額療養費制度も含まれており、医療制度を分析するうえで無視できないと考える。そこで、本研究では国民生活基礎調査の匿名データを用い、高額療養費制度の影響を考慮して医療費の価格弾力性を推定し、自己負担率の変化の医療費への影響を考察した。

本研究で使用したデータは、2004年度、2007年度、2010年度の匿名データで、自己負担限度額を推計する必要から所得票の含まれるデータ B を使用した。高額療養費制度の自己負担上限額は70歳以上になると大きく引き下がる。また、入院と外来の自己負担率も70歳から1割に引き下がる。高齢者の医療制度は、2008年に老人保健制度から後期高齢者医療制度へ高齢者の医療制度が移行するものの、本研究で使用するデータの期間中はこれらに関して大きな変化はない。そこで、本研究では年齢を強制変数とし、70歳を閾値として高額療養費制度の影響を受ける人と受けない人に分けて回帰不連続デザインを用いて同制度の処置効果を推定した。

分析の結果、制度上自己負担率が変わる70歳で不連続的に医療費が増えることを確認した。また、高額療養費制度の影響を受ける人のほうが70歳での不連続の程度が大きくなった。さらに、先行研究と同様に医療費は自己負担率の変化に対して非弾力的であることがわかった。一方、自己負担限度額を考慮した場合としない場合では結果が異なることから、高額療養費制度を考慮して分析を行うべきであることがわかった。

(2) 学術研究の成果の公表の取り扱い

○論文

中川史津香「自己負担率の変化が医療費に与える影響－高額療養費制度を考慮した研究－」, 2019年, 修士論文(シミュレーション学), 兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科. (<https://tinyurl.com/yjpphkw>)